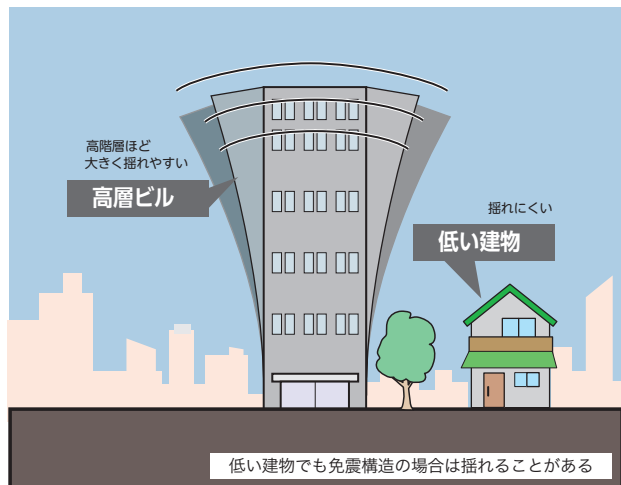


## 長周期地震動ってなに？

## 長周期地震動とは

大きな地震で生じる周期の長いゆっくりとした大きな揺れを長周期地震動といいます。高いビルでの長周期地震動による揺れの大きさは震度では分からないため「長周期地震動階級」という目安で表します。震源から数百km離れたところでも、高層ビルを長時間にわたって大きく揺らすことがあります。



階級	揺れの状況
4	●立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされる。 ●キャスター付き家具等が大きく動き、転倒するものがある。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。
3	●立っていることが困難になる。 ●キャスター付き家具等が大きく動く。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。
2	●室内で大きな揺れを感じ、物につかまりたいと感じる。物につかまらなると歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。 ●キャスター付き家具等がわずかに動く。棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。
1	●室内にいたほとんどの人が揺れを感じる。驚く人もいる。 ●ブラインドなど吊り下げものが大きく揺れる。

気象庁ホームページ：長周期地震動について



## 北海道・三陸沖後発地震注意情報について

## 北海道・三陸沖後発地震注意情報とは

三陸沖や北海道の太平洋側の沖合(日本海溝・千島海溝沿い)の領域では、マグニチュード7クラスの地震が発生した後に、さらに大きな地震(後発地震)が発生した事例があります。

実際に後発地震が発生する確率は低いものの想定震源域とその周辺で、マグニチュード7以上の地震が発生した場合には大規模地震の発生可能性が通常よりも相対的に高まっているとして、気象庁は「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発信し、併せて内閣府が防災対応の呼びかけを行い、後発地震への注意を促します。

## 注意情報が発信された場合の防災対応について

情報が発信された場合は、ただちに避難する必要はありませんが、地震発生後1週間程度は社会経済活動を継続した上で、平時よりも巨大地震の発生に注意し、地震への備えを徹底しましょう。

家具の固定や安全な避難場所・避難経路の確認など、日ごろからの地震への備えの再確認に加え、揺れを感じたら、直ちに避難できるよう準備をしましょう。



## 情報の留意事項

- 後発地震の発生可能性は、世界的事例を踏まえても百回に1回程度で、1週間のうちに必ず後発の大規模地震が発生するとは限りません。
- 注意情報の発表がないまま、突発的に巨大地震が発生することを想定し、日頃から地震への備えを行きましょう。
- 国や自治体から事前避難は呼びかけませんが、地震発生から1週間程度は地震の発生に注意しましょう。

気象庁ホームページ：北海道・三陸沖後発地震注意情報について



## 緊急地震速報(警報)はこんな時に発表されます！

発表条件	震度5弱以上を予想した場合 または 長周期地震動階級3以上を予想した場合
対象地域	震度4以上を予想した地域 または 長周期地震動階級3以上を予想した地域

長周期地震動階級の基準だけで発表することはまれですが、人命に係る重大な災害が起こるおそれがあるため、警報の基準に追加しています。ガタガタという強い揺れ(大きな震度)でも、ゆらゆらというゆっくりとした大きな揺れ(長周期地震動)でも **とるべき行動に違いはありません。** 猶予時間が限られることから、**緊急地震速報を見聞きしたらまずは身を守る行動**をとり、揺れが収まるまで行動を続けましょう。

気象庁ホームページ：緊急地震速報について



(ページ内の図表は内閣府・気象庁ホームページより抜粋、編集)